

① **ハインズ博士「超科学」をきる：真の科学とニセの科学をわけるもの**

② テレンス・ハインズ 著 井山弘幸 訳 ③ 化学同人

④ 巷には、人間の心理を巧みに利用し科学に見せかけた手口で人びとを惑わす偽科学があふれています。科学の道を目指す皆さんは、真に科学的な事とよく似た事を客観的に区別することが必要と思います。 ⑤ 林謙一郎先生

① **ウニと語る：激動の時代自然を友としたある生物学者の生涯** ② 団勝磨 著

③ 学会出版センター

④ 戦前に自分が生物学を志すことが正しいのかを知るために海を渡りペンシルバニア大学に留学。その後学位を取得するも時代は戦争へと進んでいく。高度な分析機器、コンピューターやインターネットもなかった時代に自然を相手に工夫を凝らし、純粋に生物学と取り組んだ科学者の自伝。 ⑤ 三井亮二先生

① **図解生化学検査のしくみ：健康診断から環境検査・食品検査まで**

② 坪井五三美 著 ③ 日本実業出版社

④ 血液検査、がん検診、遺伝子診断から環境検査、食品衛生検査まで。私たちの健康的な生活を守る様々な生化学検査の複雑なメカニズム、難解な知識が豊富な図で説明されている。高校の化学、生物の知識があれば十分理解でき、また1年次に開講されている基礎生物系もしくは化学系の講義と平行して読んでいくと、より一層様々な検査を見近に感じるに違いない。 ⑤ 松浦信康先生

① **食卓の生化学** ② 三浦義彰・酒井直美・橋本洋子 著 ③ 医歯薬出版

④ 本書は決して専門書ではないが、栄養学のマクロの問題（例えば沖縄に活動的な老年期を過ごす人が多い理由）を扱う一方、ミクロの問題（例えば転写因子PPAR- $\alpha$ の成人型糖尿病発症に果たす役割）も扱っている。13章がそれぞれ読み切り型になっている点は副読本として推薦できる。 ⑤ 篠田純男先生

工学部

① **グレート・ギャツビー** ② スコット フィッツジェラルド 著 村上 春樹 訳 ③ 中央公論新社

④ 1925年に出版されたアメリカ文学の代表作が、村上春樹氏によって新訳された。「60歳になったら『グレート・ギャツビー』を翻訳する」との公言を前倒しての力作。何十年にもわたって愛される作品、、、こんな研究成果を我々化学者も世に残したいものですね。 ⑤ 折田明浩先生

① **みどりの香り：植物の偉大なる知恵** ② 畑中顯和 著 ③ 丸善

④ 植物化学の入門書としても読むことができますが、著者たちがどのようにして森の香りやお茶の香りの正体をつきとめてきたのかを書き綴ったドキュメントとして読むことをお勧めします。恩師とのやりとりを含めて、化学の分野における「研究する人生」を垣間見ることができます。 ⑤ 大塚隆尚先生

① **人物で語る物理入門 上・下 (岩波新書980,981)** ② 米沢富美子 著 ③ 岩波書店

④ 夜空に見える星までの距離は地上の望遠鏡で星を観察して測るのをご存知ですか?だれにでもできそうな方法です。近くから遠くの星までの測定を工夫し、遂に宇宙が膨張していることまで発見しました。アインシュタインの相対論には宇宙項が余分に付いています。そのわけは、本書に! ⑤ 助台榮一先生

① **科学事件 (岩波新書663)** ② 柴田鉄治 著 ③ 岩波書店

④ 近年、科学技術に関係する多くの事件・事故が社会を騒がせており、科学技術と社会の関係が大きくクローズアップされている。本書は、最近話題となった事件に検証を加えることによって、科学技術と社会の関係を見直そうとするものである。科学技術に携わろうとする者にとって、一読する価値がある。 ⑤ 片岡克己先生